

2003 年度
新歓期におけるビラ対策報告書

2003 年 4 月 20 日

環境三四郎

キャンパスエコロジー活動

目次

0、はじめに	P.2
1、企画目的	P.3
2、主催	P.3
3、企画概要	P.3
4、新歓ビラに対する企画調査	
4-1、目的	P.3
4-2、主催	P.3
4-3、対象	P.3
4-4、実施期間	P.3
4-5、アンケート内容とその結果	P.4
4-6、結果分析	P.6
5、ビラに対する対策内容	
5-1、対策内容原案	P.7
5-2、実施した対策内容	P.10
6、ビラ回収	
6-1、実施日時及び実施場所	P.11
6-2、回収風景	P.11
6-3、回収量	P.12
6-4、回収したビラの処理	P.12
7、反省会	P.13
8、終わりに	P.14

0 : はじめに

例年、新歓期における活気溢れる勧誘活動は東大の風物詩の一つとなってきました。各サークルが工夫を凝らした勧誘活動を行い、キャンパス内が一際賑わうこの時期に、まだなお根強く残る問題があるのも事実です。その一つとして、ビラとして使われる紙の問題があります。

新入生に直接配る「撒きビラ」はもちろん、掲示板や建物内に貼る「貼りビラ」、新入生に配られるビラ詰め封筒用の「詰めビラ」など、1つのサークルが作るビラの量は数千枚、時には1万枚を超えます。これらのビラは単に紙資源の大量消費につながるだけでなく、路上に捨てられる事によって構内の景観に悪影響を与え、膨大な清掃の手間にもつながります。さらには新入生に、そのような状態が「当たり前」という意識を植え付ける事にもなりかねません。

各サークルのより良い活動のため、活発な広報を行うのは奨励すべき事ですし、そのための手段としてビラが非常に有効である事も事実です。

本報告書は、上記のような問題点の解決に向けて行った 2003 年度における一連の活動内容を記した物です。また、活動に際しては各サークルの勧誘活動に極力悪影響を与えないよう十分な配慮をしたつもりであります。

具体的な内容は以下で詳しく述べますが、当日のビラ回収や学生への意識調査など、多大な労力を必要とする部分が多々あり、その度に多くの方にご迷惑をお掛けした事を心からお詫び申し上げます。同時に、ご協力いただいたオリエンテーション委員会の方々やメンバー一同に心からお礼の言葉を述べたいと思います。

1、企画目的

- ・紙資源の有効利用
- ・新歓期の構内美化
- ・新入生の環境意識向上

の3つを目標とし、さらには使用されるビラの量そのものを削減する事を目的とする。

2：主催

環境三四郎 キャンパスエコロジー活動

3：企画概要

1のような目的のため、

- ・一般学生のビラに対する意識調査実施(2002 年末)
 - ・ビラへのリサイクル推進文挿入(2003 年 3 月)
 - ・新歓期における不要となったビラの回収及びリサイクル(2003 年 3、4 月)
- を主に行った。以下、各内容の詳細を記す。

4：新歓ビラに対する意識調査

4-1：目的

一般学生が新歓ビラとそれを使った勧誘方法についてどのように考えているのかを知ることで、今後の対策の指針とする。

4-2：主催

オリエンテーション委員会の名義を借りて実施した。

4-3：対象

2003 年度の新歓の中心になると思われる当時の 1 年生を対象に、ランダムに数クラスを選んで語学の授業後に行った。文一・二 5 組 / 文一・二 14 組 / 文三 8 組 / 理一 22 組 / 理二・三 13 組 他

4-4：実施時期

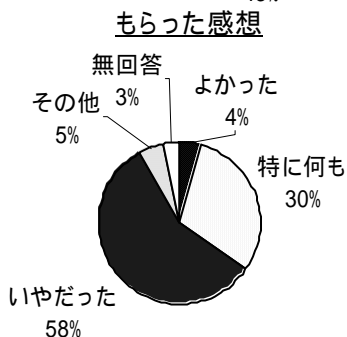
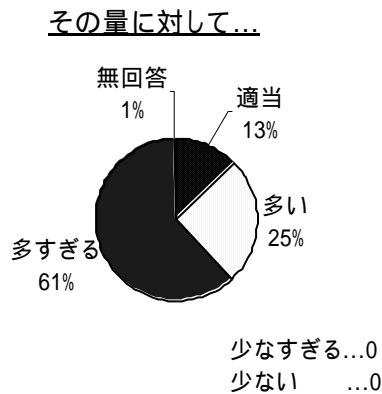
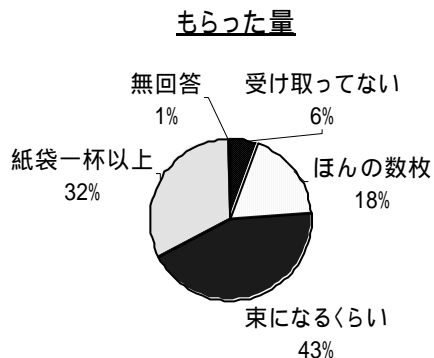
2002 年 11 月 28 日 ~ 12 月上旬

4-5 : アンケート内容とその結果

有効回答枚数 : 179 枚

その他のコメントがあった項目については の中に書いてあります。

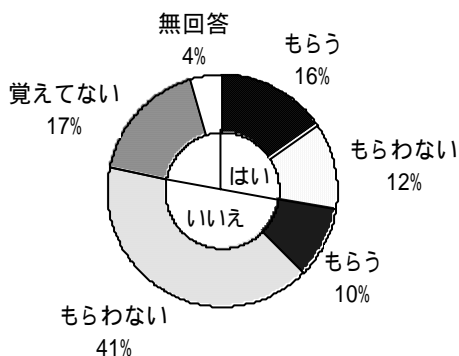
< 撒きビラについて >



感想その他
 重い / 向こうも必死だからしょうがない / 頭悪い / そんなもんかと思った / もっと勧誘に配慮した勧誘をしたい / 仕方ない / 一人だったのである程度楽しかった / 大変そうだな - やりたくないな -

< 詰めビラについて >

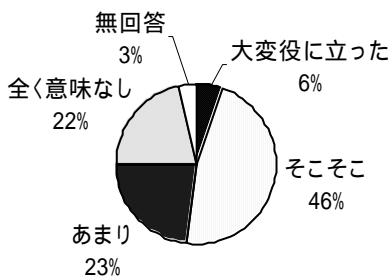
全てのサークルのビラが入っている事に気付きましたか？
また、気付いていたら(いなかったら)その後、ビラをもらいましたか？



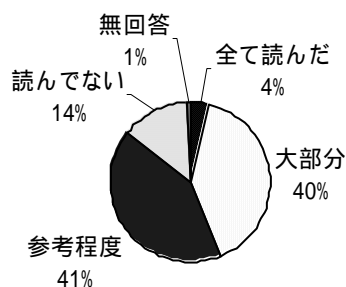
はい もらうの人
 無理やり渡された、断りにくかった、受け取らないと通れなかった、などがほとんど。

いいえ もらうの人
 どうせ無理やり渡される、断りづらいなどがほとんど。

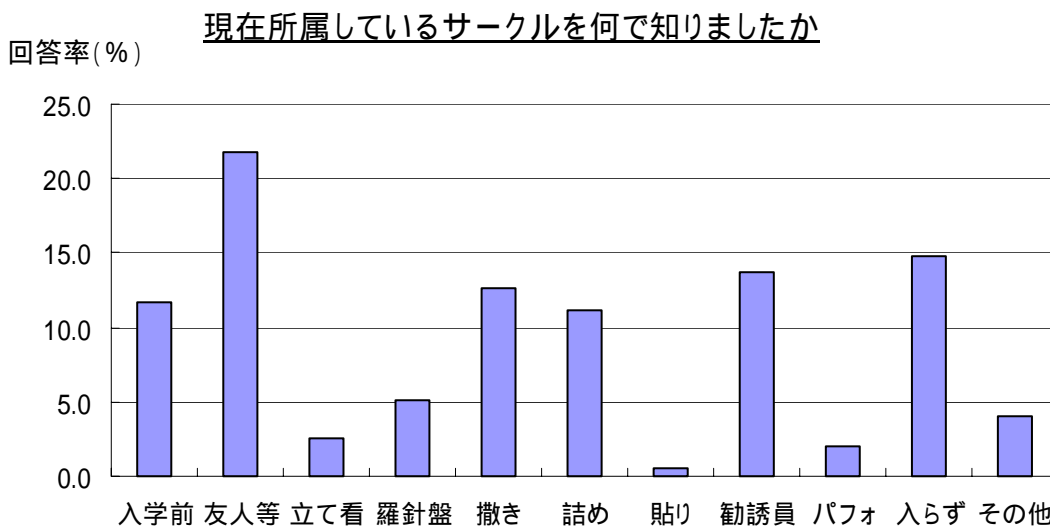
ビラ詰めは役立ちましたか？



詰めビラを読みましたか？

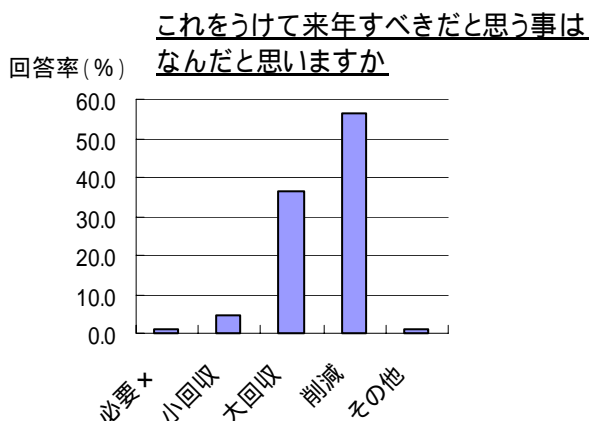
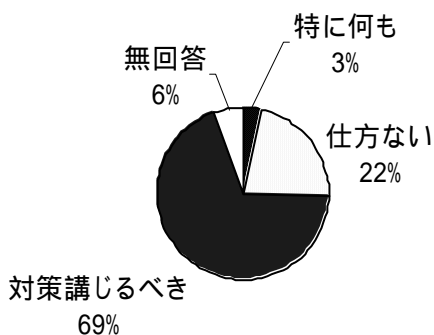


< 全体について >



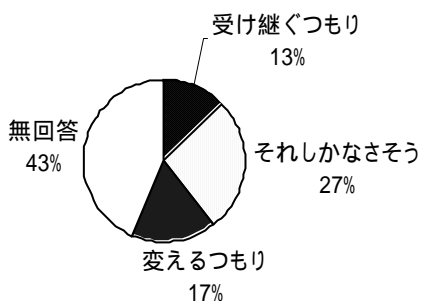
サークルによっては 1 万枚以上のピラを作成している

所もあります。これについて…



大規模回収と答えた人 出したピラは本人たちが回収すべき。
その他 各サークルの前で燃やせ。

ピラを撒く勧誘方法を…

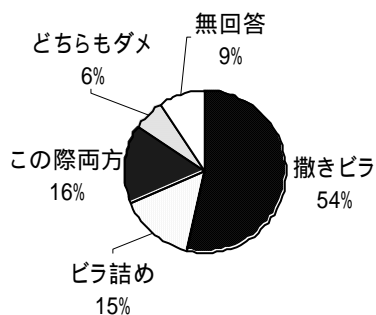


受け継ぐと答えた人
 一番効果的 / 風物詩と思えばいい、など。もともとうち
 はピラを撒かない、という人が5人。

それしかなさそうと答えた人
 代替案を思いつかない / 効果がある / 他のところに負
 けたくない / 上に言われたら従うしかない / みんなや
 る気っぽい / 自分は新歓に関わっていない /

変えるつもりと答えた人
 ピラ詰めだけにする、という人も、ピラ詰めはいら
 ないという人も。

もしも規制 / 廃止するなら？



その他新歓ビラに関して何か意見はありますか？

回収箱の場所がわからなかったから、もっと大規模にしてほしい / 強引な団体に困る / ビラをまとめた冊子を作り、1人1冊配れば？ / 日々教室に撒かれるビラの方が問題 / サークルに入りたい人だけに勧誘するシステムを！ / ビラ詰めは意味なし、撒きビラはよい / ビラのデザインを競うコンテストをし、結果次第で配る上限を決める / ビラ回収頑張って下さい
<その他多かったもの>
うとうしかった、疲れた、苦痛、迷惑、など
規制すべき、など

4 - 6 : 結果分析

撒きビラに関しては、新入生の多くが束になる量以上のビラを受け取っており、またその量を多すぎると感じていた学生、もらって嫌だったと感じていた学生が過半数にのぼっている事が分かる。よって、配られるビラの量自体を減らす工夫をすると共に、ビラを不要と言う新入生に対しては無理にビラを渡さないなど、勧誘する側のマナーの向上も課題である。

詰めビラに関しては、参考程度もしくは大部分を読んだと答えている学生が8割を超えている上、サークルを考える上で役立ったと答えている回答も過半数にのぼるため、詰めビラは新入生にとって有用だったと考えられる。但し、詰めビラ封筒の中に各サークルのビラが入っているとその場で気付かなかった学生は半数以上にのぼり、しかも気付いていなかった学生のほとんどが、もしも気付いていたらその後は撒きビラを受け取らなかったと答えているため、封筒のデザインを改良するなどして一目でビラが入っている事が分かるようにする必要があると考えられる。

しかし、削減すべきと考えている人や、勧誘方法に問題がると感じている人がいる一方、ビラを撒く勧誘方法はやはり効果的で受け継ぐと答えている人もいる。

また、変えようと思っても代替案が思いつかなかったり、他サークルに負けないためやらざるを得ないと考えているサークルもいる。このように、削減へ向けた努力をしようとしても、今の慣習では事実上不可能に近いというのが本当の所と思われる。

そこで、これらを踏まえて私達は以下に示すような対策をとろうと考えた。

5 : ビラに対する対策内容

5 - 1 : 対策内容原案

以上の結果から、私達がオリエンテーション委員会に提案したのは以下の内容である。

) 撒ビラについて

- a) アンケートの集計結果を基にビラの枚数の自主規制をサークル代表者会議にて呼びかける。

アンケートによれば有効回答 179 枚の内、62%の人が撒きビラを「多すぎる」と感じており、59%の人が撒きビラを貰って「嫌だった」と解答していた。

よってサークル代表者会議の際に、多すぎるビラは逆効果であることを強調してビラの作成枚数の自主規制を促す説明をさせてもらう。

- b) 諸手続きなどの際に、勧誘を受けない抜け道を確保し、そこでは絶対に勧誘しない事を徹底する。

ビラを撒く勧誘方式に対して、「苦痛だった」「迷惑だった」と感じていた一年生がいたほか、やむを得ない理由などにより早く帰らなければいけない新入生のためにも、勧誘が行われる以外のところに出口に設けて表示を作成し、違反サークルがいなか監視する。

) 詰ビラについて

- a) 全サークルのビラが入っている事にその場で気付いてもらえるよう、封筒表のデザインを変更する。

ビラが入っていることにその場で気がつかなかったという人が全体の 72% (うち、覚えていない 18%)、多くのビラが入っていると分かれば、以後撒きビラを受け取らなかったという人は全体の 43% に上がった。そのため、ビラ詰め封筒を貰ってすぐにビラが詰まっていると気付けばそれ以降の勧誘に対して無差別にビラを貰う事が無く、重複によって不必要となったビラがそのまま捨てられる量が削減できると考えたため。そこで、2003 年度用のビラ詰め封筒の表に、全サークルのビラが入っていることを伝える内容を印刷してもらう。

- b) 配布時に一言聞いて希望者にのみ配布。

「ビラ詰めが役立ったか？」という質問に対し、46%の人が「全く意味が無い」若しくは「あまり意味が無い」と答えている。そこで、必要以上のビラ詰め封筒を配布しないととも、来年度以降は進入生全員分より少ない作成量で抑えるために、どの程度の新入生がビラ詰め封筒を貰う意思が調べる意味も含めて、ビラ詰め封筒が

欲しいかどうかをオリエンテーション委員会に一言聞いてから渡してもらおう。

- c) 諸手続きの時だけでなく、健康診断の時にビラ詰めを新入生に配布する。

昨年は諸手続きの時にビラ詰めを新入生に配布していたが、ビラ詰めの作成時期と配布時期を早めて健康診断のときに配布する事で重複したビラを貰わないですむと考えたため。また、一度に配布する量が諸手続きの時に比べて減少するため、上述のように希望を聞くという事が容易になると考えたため。

) 貼ビラについて

- a) 貼りビラの存在の薄さを強調し、貼りビラ撤廃を提案。

貼りビラによって現在所属しているサークルを知ったという人は約 1%しかいないことから、貼ビラによる宣伝効果は低いと思われる。そこで、サークル代表者会議においてアンケート結果を伝えた上で紙資源の節約と景観美化の観点から、貼ビラは行わない方が好ましいことを伝える。

- b) 剥がせるテープ以外使用禁止。

ビラを貼った場合、仮に剥がしたとしても普通のテープでは壁に跡が残りやすくなる。そのため、貼ビラを行う場合は必ず「剥がせるテープ」を使うよう各サークルに伝える。さらに、サークルが実行しやすいよう、各サークルに剥がせるテープを配布する。

- c) 屋外は掲示板以外貼りビラ禁止。

屋外にビラを貼った場合、剥がれるなどして構内の景観を損ねるほか、回収が困難になり紙資源の無駄になる。そこで、屋外では掲示板以外にビラを貼ることを禁止する。

- d) 屋内は窓と床は禁止

床にビラが貼ってある場合、滑って怪我人が出る恐れがあり、窓に貼ってある場合は剥がすのが困難なほか、外からもビラが見える上採光の関係上好ましくないと考える。そこで、屋内にビラを貼る場合は窓と床には貼ることを禁止する。

) 監査方法について

現段階では、ビラの過剰作成やビラを押し付けるような勧誘方法を監視するのは難しいと考える。そこで、貼ビラと撒ビラについては環境三四郎とオリエンテーション委員会とが以下の範囲について監査を行う。

貼ビラについては監視員が見回りを行い屋内の窓や床、屋外の掲示板以外の所にビラを貼っている団体が無いかをチェックし、撒ビラについては抜け道からの勧誘禁止場のみ監視員をつけ、勧誘を行っている団体が無いかチェックする。

) 違反団体に対する対応について

)で監視員がつくとした貼ビラと撒ビラについては、規制効果を高めるために違反した団体について以下の対応を行う。

まず、サークルオりに参加する時点で企画保証金として一定額(1団体1万など)を徴収し、無違反の場合はサークルオリ終了後に保証金を返却。違反が見つかった場合、内容に応じて返却金を減らしていきます。違反の内容が悪質な場合、内容によっては来年度のサークルオリへの参加権抹消、槌音への掲載権抹消などの処置を取る。

) ビラ回収について

昨年は環境三四郎の名で行っていたビラ回収を、2003 年度は「新勧ビラ対策プロジェクト」がオリエンテーション委員会との協力と言う形で行う。これは、「環境三四郎」というサークルが他団体が作ったビラを回収するのはおかしいと考えたからである。回収そのものの目的は、資源の無駄を軽減させる他、不要になったビラが構内に捨てられて景観を乱すのを防ぐため。

回収場所は、駒場キャンパス正門前、本郷キャンパス赤門前、同正門前の3箇所。それに伴い不要になったビラの回収率を上げるため、全てのビラに「不必要なビラは持ち帰るか、～にある回収ボックスに入れてリサイクルにご協力下さい。」と記入する事をサークル代表者会議で説明し、義務付けてもらう。ビラ詰めの封筒にも、同様の注意を回収場所の地図つきで印刷してもらう。

2002 年度は回収した紙を業者に搬入するのが非常に労力を要したため、2003 年度は業者に引取りに来てもらう予定のため、そのための補助金を環境対策費として私達に援助してもらう。

5 - 2 : 実施した対策内容

交渉の結果、枚数規制やビラ詰め封筒を作成する時期の変更、また金銭が絡む点は難しいということになり以下の点のみ行う事になった。

) - a),

) a),

) b),c),d)

)(オリエンテーション委員会のみで)

)(環境三四郎が独自に行うと言う形で。資金援助は無し)

なお、「ガラスに貼るのは禁止」「サークルオリの終了後、各サークルが分担して貼りビラを剥がす」などは例年通りの対策である。

以下に、)に関してサークル代表者会議で配布した資料を載せる。

新歓ビラへのリサイクル推進文印刷のお願い

環境三四郎

**「不要になったビラは、持ち帰るか、
正門前にあるビラ回収BOXに入れて
ください」**

昨年同様、環境三四郎では不要になった新歓ビラの回収を健康診断・諸手続き・サークルオリ当日に、駒場正門前と本郷正門・赤門前で行います。

サークルで新歓用に印刷するビラにつきましては、上記のような紙のリサイクルを勧めるフレーズを入れるようにして下さい。

尚、回収したビラにつきましては全てリサイクル業者に回し、それ以外の用途では一切使用しません。

第1回のサークル代表者会議配布資料の中にもありましたが、オリエンテーションも社会的活動の一環です。

紙資源の有効活用や構内美化のため、また、新入生のマナー向上のため、ご協力よろしくお願いします。

尚、この活動に関するお問い合わせは、
環境三四郎プロジェクト責任者
桐生 朋文
(g250345@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)
まで、お願いします。

6：ビラ回収

6-1：実施日時及び実施場所

3/10(月)	前期合格発表(本郷)
3/18(火)～22(土)	新入生健康診断(本郷)
3/23(日)	後期合格発表(本郷)
3/29(土)	後期健康診断(本郷)
4/2(水)～3(木)	諸手続き(駒場)
4/7(月)～8(火)	サークルオリ(駒場)

回収時間は、多くのサークルが勧誘を行っている時間ほぼ全て。だが集まるビラの量には非常にばらつきがあり、健康診断の際にはほとんどゼロであった。

実施場所については、本郷の時は正門前と赤門前、駒場の時は正門前。

但し、4/8(火)についてのみ、生協食堂の依頼により食堂入り口でも回収を行った。

6-2：回収風景



合格発表(赤門前)



サークルオリ

6-3：回収量

回収したビラの総量は以下の通り

回収ビラ：464.6kg

回収枚数：約 137000 枚(2.7kg/800 枚とした)

ビラ詰めに参加したサークルを 300 とすると、ビラ詰めに使われたビラは
約 $3600 \times 300 = 1080000$ 枚

さらに、この約半分くらいの撒きビラが作られたと仮定すると、新歓ビラの総量はおよそ 150 万枚程度と推測される。(学生会館以外で紙を購入している団体も多いため正確な値は不明)

そうすると、今回のビラ回収で集められたビラの量は全体の約 1 割弱程度という事になる。

参考までに、直径 14cm、高さ 8m の木を木材チップにすると 100kg になり、チップ 100kg からは約 50kg の紙 (ティッシュ 170 箱分) がつくられるというデータがあるため、これを元に計算してみると

約 $464.6 \div 50 = 9.2$ 本分の木の木材チップにあたる量の紙を回収した事になる。

もちろん、これはあくまでヴァージンパルプを使用した場合であり、新歓ビラの多くが再生紙を利用している事を考えると、本来とかなり異なった数値であろう事は承知されたい。

6-4：回収したビラの処理

集めた紙類は全て、一時的に 1 号館裏の紙倉庫に保管した後、教養学部と同様のリサイクルルートに回していただいた。これらは(株)オーチュー様のご好意によるところが非常に大きく、この場を借りてお礼申し上げたい。

尚、教養学部が行っている紙のリサイクルとは、情報棟、事務棟、研究棟に設置されているリサイクルボックスに入れられた物を対象としており、普段前期過程学生が利用しているゴミ箱やクリーンボックスに入れられた紙は可燃ごみとして処理されている。

具体的業者名は以下の通り。

1 号館紙倉庫

(株)ハッピー倉庫運輸 < 収集運搬 >

豊岡産業(有)

セツソ(株)

ビラ運送風景



7: 反省点

- ・時間の都合上、紙のリサイクルをする事が環境に良いのかといった検討を行う事が出来なかった。
- ・アンケート結果を十分に対策内容へと反映させる事が出来なかった。
- ・動き出しが遅かったため、提案した企画の中には既に手遅れになってしまっているものもあった。
- ・一部の人間に仕事が偏ってしまったことが、作業効率の悪化につながっただけでなく、他人の仕事を把握出来ない事にもつながった。
- ・ビラを回収する事に重点をおいてしまい、ビラそのものの削減や構成員の意識を変えるための取り組みがほとんど出来なかった。
- ・アンケート項目がバイアスのかかるような文面になってしまい、公正さを欠いた。
- ・当日の回収箱の管理方法を十分に考えてなかったため、急遽別な回収箱を作って設置する事になってしまった。
- ・ビラ回収を行う意義がメンバー間で共有されておらず、スムーズに回収を行う事が出来なかった。
- ・ビラ回収の場において回収者による不適切な発言があり、他サークルの方に不快な思いをさせてしまった。
- ・BOX 回収には絶えず人が張り付かなければならないため、多くのマンパワーが必要になってしまった。
- ・一連の活動において、昨年度の反省が十分に生かされていなかった。

8：終わりに

実際に活動を行う中で、非常に多くの方の「ビラ」に対する意識を感じる事が出来ました。

自分達のサークルのビラを回収 BOX の中で見つけては、悲しそうに取り出していく上級生。そんな姿を見ていると、どんな思いでこのビラを作ってきたのかが伝わってきて、サークルの目の前で回収を呼びかけた事があったのを本当に申し訳なく思いました。他サークルに与える不快感を最小限にするため最大限の努力をしたい、「不要なビラ」という表現を活動途中から却下した事や、積極的な呼びかけや勧誘活動を禁止したのはそのような思いからです。

だったら何故ビラ回収を行うのか？背中合わせに絶えずそんな疑問がありました。エネルギー消費や CO2 排出量の面から考えると、紙のリサイクルが現段階では環境にマイナスだというのは今ではよく言われていることです。私達がビラ回収をしているのを見て「三四郎なのに何も考えてないんだな」と思った人もきつといた事でしょう。それでも時折足を止めてビラ回収について話を聞いてきたり、中には一緒に回収を手伝ってくれる人もいました。

「あ～、見て見て。ビラのリサイクルとかやってるんだ。すごーい。」

そんな言葉を残して通り過ぎていく人もいました。結局、ビラ回収の一番の意味はそこにあると思います。実際の環境負荷低減にどれだけの効果があるかは定かではありませんが、環境三四郎というサークルがそういった活動に「取り組んでいるという事実」、それを見た人がこれからは環境に今よりちょっと気を使った生活を心がけるようになってくれれば、それで十分大きな効果はあったと考えます。

今後はそういった意識面だけでなく、実際の環境負荷低減により一層の力を注いでいく事も課題となると思います。それでも、絶えず対象にする相手の気持ちを考え、お互いが納得できるような形での活動を探し続ける努力をしていきたいと思っています。

2003 年 4 月 20 日
キャンパスエコロジー活動
責任者 桐生朋文